

事業名	第二東海自動車道 えびなみなみ はだの (海老名南 JCT~秦野)		事業区分	高速自動車国道	事業主体	中日本高速道路(株)
起終点	自) 神奈川県海老名市中野 至) 神奈川県秦野市八沢			延長	2.1 km	
事業概要 第二東海自動車道は第二名神高速道路と一体となって、三大都市圏を相互に結び、人の交流と物流を支える大動脈として、日本経済を牽引するとともに、東名・名神高速道路の代替機能を果たす上で不可欠な路線である。						
H10年度事業化		H8年度都市計画決定		H10年度用地着手		H 年度工事着工
全体事業費	7,260億円		事業進捗率	13%	供用済延長	0 km
計画交通量	44,100台/日~56,500台/日					
費用対効果 分析結果	B/C	総費用	(残事業)/(事業全体)	総便益	(残事業)/(事業全体)	基準年
	(事業全体) 1.8 (残事業) 2.1	4,873/5,781億円 事業費： 4,660/5,568億円 維持管理費： 213/213億円		10,241/10,241億円 走行時間短縮便益：9,504/9,504億円 走行費用減少便益 599/599億円 交通事故減少便益： 137/137億円		平成20年
感度分析の結果				残事業について感度分析を実施		
交通量変動	: B/C=2.3 (交通量 +10%)		B/C=1.9 (交通量 -10%)			
事業費変動	: B/C=1.9 (事業費 +10%)		B/C=2.3 (事業費 -10%)			
事業期間変動	: B/C=2.3 (事業期間 -1年)		B/C=2.0 (事業期間 +1年)			
事業の効果等 現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる 当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する 緊急輸送路が通行止めになった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する 他14項目に該当						
関係する地方公共団体等の意見 第二東海自動車道は、慢性的な渋滞状況に陥っている東名高速道路と交通機能を分担することで高速サービスを確保するとともに、地震等による災害発生時には緊急輸送路としての役割を果たす極めて重要な道路であることから静岡県知事を会長とする新東名高速道路建設促進協議会より整備促進の要望（平成20年11月12日）を受けている。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 東名高速道路の利用交通量が年々増加し、交通容量を上回っている。東海地震の発生も想定される。東名高速道路の道路構造物の老朽化が進んでいる。						
事業の進捗状況、残事業の内容等 現在用地交渉中、一部工事中。						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 今後も引き続き工事の推進を図る予定。						
施設の構造や工法の変更等 新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら積極的にコスト縮減を図っていく。						
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図 注:本資料のIC名については全て仮称						

□ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの